多機能型事業所

かなで♪

療育ハンドブック

一人ひとりの「できた！」を
未来につなげる。

今日の小さな一歩を積み重ねて、
青年期・成人期を迎えたときに、
自分らしく暮らし、社会の中で力を発揮できる人へ。
私たちは、未来を見据えた支援を大切にします。



このハンドブックに込めた想い

このハンドブックは、多機能型事業所かなでが大切にしている
療育の考え方や支援の実践を、分かりやすくお伝えするために作成しました。

かなでは、子どもたち一人ひとりの成長を支えるためには、
ご家庭、学校や園、相談支援専門員、医療・福祉などの関係機関、
そして私たち事業所が、同じ方向を向いて歩んでいくことが大切だと考えています。

このハンドブックが、かなでの療育への理解を深めるきっかけとなり、
子どもたちのより良い成長につながることを願っています。



かなでは、こんなことを大切にしています

一人ひとりを大切にすること

その子らしさを認め、
強みや可能性を信じて、
一人ひとりに寄り添います。

みんなで子どもを支えること

ご家庭や学校・園、関係機関と
連携し、チームで子どもたちの
成長を支えます。

子どもの可能性を信じること

「できた！」を積み重ね、
自信や自己肯定感を育み、
未来へつなげていきます。

未来につながる支援を行うこと

青年期・成人期まで
見据えた支援を行い、
その先の生活を支えます。

子どもたち一人ひとりの未来のために、
ご家庭や関係機関の皆さまと
ともに考え、ともに支え、ともに歩んでいきたい。
その想いを、このハンドブックに込めました。



第1章

かなでの療育と支援

― かなでが大切にしていること ―



かなでは、子どもたちが安心して過ごし、自分らしく力を発揮できるように
支援を行っています。
「好き」「得意」「やってみたい」という気持ちを大切にし、
その子に合った関わりや環境の中で、できることを少しずつ増やしていきます。
ご家庭・学校や園・相談支援専門員・医療・福祉などの関係機関と力を合わせ、
子どもたちの未来につながる支援を行っていきます。

1 かなでについて

多機能型事業所 かなで

児童発達支援・放課後等デイサービス・
保育所等訪問支援を行う事業所です。

子どもたちの「やってみたい」を大切に

「好きなこと」「得意なこと」を見つけ、
自信や意欲につながる支援を行います。

みんなで支える体制

ご家庭や学校・園、相談支援専門員、
医療・福祉などの関係機関と連携し、
チームで支えていきます。

2 かなでが目指す姿

**子どもたちが、
自分らしく、自分のペースで
未来へ向かって歩んでいけるように。**



小さな「できた！」の積み重ねが、自信や意欲となり、
将来の生活や社会参加につながっていきます。

3 かなでの療育 ― かなでが大切にしていること ―

一人ひとりに合わせた支援

発達や特性、興味・関心、
得意なことや課題を丁寧に
アセスメントし、その子に
合った支援を行います。

その子らしさを大切に

子どもたちの個性や気持ちに
寄り添い、ありのままの姿を
認め、自信や自己肯定感を
育みます。

つながりを大切に

ご家庭や学校・園、相談支援
専門員、医療・福祉などの
関係機関と連携し、子どもを
支える輪を広げます。

未来につながる支援

今の成長を支えるだけでなく、
将来の自立や社会参加を見据え、
生活や学びにつながる力を
育てていきます。

4 支援の流れ

1 アセスメント



お子さんの発達や特性、
興味・関心、得意なこと、
困りごとを把握します。

2 個別支援計画の作成



アセスメントをもとに、
目標や支援内容を
計画します。

3 支援の実践



計画に基づき、構造化や
TEACCHプログラムなどを
活用して支援を行います。

4 振り返り・評価



支援の効果や子どもの様子を
振り返り、達成状況を評
価します。

5 見直し・より良い支援へ



評価をもとに計画を見直し、
より効果的で、その子に合った
支援につなげます。

子どもたち一人ひとりの成長に合わせながら、支援を積み重ねています。

第2章

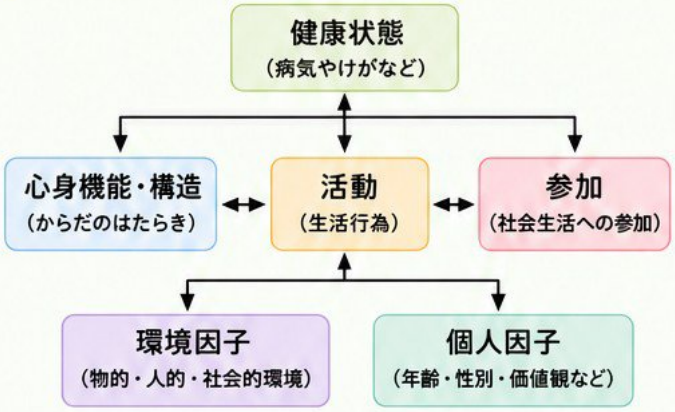
療育を支える理論

― 私たちの支援の土台となる考え方 ―



かなでは、子ども一人ひとりの特性や強み、生活の背景を大切にし、
さまざまな視点や考え方を取り入れながら支援を行っています。
ここでは、私たちの療育の土台となる５つの理論や考え方を紹介します。

ICF（国際生活機能分類）



ICFは、子どもの心身の働きや活動、参加、
環境との関わりなどを総合的に捉える考え方です。
かなでは、一人ひとりの特性や生活環境を理解し、
その子に合った支援につなげています。

ストレングスモデル

子どもやご家族がもっている強みや資源に着目し、
その力を信じて支援を行う考え方です。
できていることに目を向け、自己肯定感や自信を
育みながら、その子らしい成長を支えます。

心理社会的アプローチ

子どもの気持ちや思いを大切にし、安心できる
関係の中で支援を行う考え方です。
子どもが「わかってもらえた」「受け止めてもらえた」と
感じることが、成長につながると考えます。

機能的アプローチ

子どもの行動や困りごとの背景を理解し、
その子に合った環境や支援方法を工夫します。
安心して過ごせる環境を整えることで、子どもが
自ら考え、選び、自分の力を発揮できるよう
支援します。

TEACCHプログラム

自閉スペクトラム症の特性に配慮した構造化の考え方です。
「見てわかる環境」や「見通しが持てる」環境の中で、
子どもが安心して自分で取り組めるように支援します。
一人ひとりの理解や行動のスタイルに合わせて、
その子に合った支援を行います。

これら５つの考え方を組み合わせ、
子ども一人ひとりの特性や状況に合わせた支援を行っています。

第3章

構造化支援

― 子どもが安心して活動できる環境づくり ―



構造化支援は、子どもにとって「わかりやすい環境」をつくり、
見通しを持って安心して活動できるようにする支援です。
かなでは、TEACCHプログラムの考え方をもとに、５つの要素で
環境を整えています。

構造化とは

子どもが「何をするのか」「どこでするのか」「いつまでにするのか」「どうやってするのか」「終わったらどうするのか」がわかるように、環境や情報を整理し、見える形で示すことです。

構造化の５つの要素

1 物理的構造化

活動の場所や動線を整理し、
どこで何をするのかが
わかるようにします。



例）エリアを分けて活動の
場をわかりやすくする

2 スケジュール

１日の流れや活動の順序を
視覚的に示し、見通しを
持てるようにします。



例）視覚スケジュールで
流れを示す

3 ワークシステム

課題の始め方や終わり方を
明確にし、一人で取り組める
ようにします。



例）「すること」と「終わったもの」を
分けて提示する

4 視覚支援

文字・写真・絵カードなどを使い、情報を
目で見て理解できるようにします。



例）絵カードや写真で手順やルールを示す

5 時間の構造化

時間の経過や活動の終わりがわかるようにし、
安心して活動に取り組めるようにします。



例）タイマーや事前予告で終わりを伝える

構造化された環境は、子どもたちの「わかる」「できる」「自分でできる」を支え、
安心して活動できる土台になります。

第4章

かなでの療育の実践

－ 一人ひとりに合わせた支援を大切に －



かなでは、子どもの特性や発達の段階に合わせて、
一人ひとりに合った療育を計画し、実践しています。
さまざまな活動や工夫を通して、「できた！」「楽しい！」の経験を
積み重ね、将来の生活や社会参加につながる力を育てます。

個別化された支援

子どもの「得意なこと」「苦手なこと」や「生活の様子」などを丁寧に把握し、
一人ひとりに合った支援を組み合わせて行います。

1 個別支援計画

アセスメントに基づき、目標や
支援内容を計画します。
定期的に見直し、より良い
支援につなげます。



例 目標の設定・見直し
支援内容の評価

2 シナリオを使った支援の統一

子ども一人ひとりに合わせたその日の
支援内容や時間配分をシナリオとして
作成し、スタッフ全員が共有しながら
支援を行います。
必要に応じて予定を変更する時間も
設け、変化にも柔軟に対応できる力を
育てます。



3 個別課題

一人ひとりの課題に合わせた
個別課題（自立課題）に
取り組み、認知・生活・学習
面の力を伸ばします。



例 マッチング・分類
数・文字・手順の課題

4 運動あそび

体の使い方やバランス感覚を
育て、楽しみながら体力や
自信を高めます。
ルール理解も促します。



例 バランス遊び・サーキット
ボール遊び・粗大運動

5 感覚あそび

さまざまな感覚を使った遊びを
通して、感覚の調整や
落ち着き、集中力を育みます。



例 触覚あそび・水あそび
スライム・感触あそび

6 お口の体操

口や舌の動きを整え、
食べる・話す・呼吸する力を
育てます。楽しく取り組める
内容を取り入れています。



7 えらぶ（選択）

活動や遊びの中で「えらぶ」
機会を大切にし、自己決定や
主体性を育てます。
コミュニケーションの練習にも
つながります。



例 活動・遊び・おやつなど
から選ぶ

8 般化（はんか）

できるようになったことを、
場面や人、環境が変わっても
使えるように練習し、
生活の中で活かせる力に
つなげます。



これらの支援を組み合わせて行うことで、
一人ひとりの「できた！」を増やし、将来の生活や社会参加につながる力を育てていきます。

第5章

ともにつくる支援

― 保護者・関係機関とともに、よりよい支援を目指して ―



かなでは、子ども一人ひとりの成長のために、
保護者や本人、関係機関とつながり、
情報を共有しながら、チームとして支援を行います。
ともに考え、支え合いながら、安心して成長できる
環境をつくります。

つながりを大切にする連携

1 連絡システム・日々の情報共有



・連絡システムを活用し、活動内容や様子を共有します。

・ご家庭での様子や困りごとなどもお知らせいただき、支援に活かします。

・日々の小さな変化も大切に受け止めます。

こまめな情報共有が、安心と信頼につながります。

2 個別面談・ケース会議



・個別面談を定期的に行い、子どもの成長や課題を共有し、支援の方向性を確認します。

・必要に応じてケース会議を行い、関係者が集まり、共通理解のもと支援を進めます。

保護者や本人の思いを大切にし、一緒に支援を考えていきます。

3 学校・園・関係機関との連携



学校・園 → 相談支援事業所 → 医療機関 → 行政機関 → 他事業所

・学校・園との情報交換や必要に応じた見学・訪問を行います。

・相談支援事業所や医療機関、行政機関、他事業所などとも連携し、切れ目のない支援を目指します。

それぞれの立場で力を合わせ、子どもの成長を支えます。

支援の質の向上

記録・面談・モニタリングを通して、支援を振り返り、よりよい支援につなげていきます。

支援記録



子どもの様子や支援内容を日々記録します。
客観的に記録することで、成長や変化を把握します。

面談・個別支援計画



保護者や本人の思いを大切にし、一緒に個別支援計画を作成します。
目標や支援内容を共有し、支援の方向性を確認します。

モニタリング（振り返り）



計画に基づく支援の状況を振り返り、目標の達成状況や課題を共有します。
定期的に面談や話し合いを行います。

支援の見直し（PDCA）



見直した内容を支援に反映し、改善を重ねながら、よりよい支援を目指します。

保護者や本人と成長を共有し、一緒に支援を考え、改善を重ねていきます。

安全で安心な支援

ヒヤリハット

ヒヤリとしたことを記録し、原因を分析して再発防止につなげます。

虐待防止

子どもの人権を守り、虐待の防止に取り組みます。
研修やチェックを定期的に行います。

身体拘束適正化

身体拘束は原則行いません。
やむを得ない場合も、基準を守り、記録と振り返りを徹底します。

感染症対応

手洗い・消毒・換気などを徹底し、感染症の予防と拡大防止に努めます。

災害対応

緊急時の対応方法を整え、避難訓練や備蓄の確認を定期的に行います。

かなでは、支援を事業所だけで進めることはありません。
保護者や本人と成長を共有し、話し合いを重ねながら、
一人ひとりに合った支援を一緒につくっていきます。

多機能型事業所
かなで

多機能型事業所　かなで

児童発達支援
放課後等デイサービス
保育所等訪問支援

一人ひとりの「できた！」を
未来につなげる。

事業所情報

所在地
〒889-1913
宮崎県北諸県郡三股町大字餅原993番地1

電話番号
0986-70-9885

サービス内容
- 児童発達支援
- 放課後等デイサービス
- 保育所等訪問支援

対象
- 児童発達支援：未就学児
- 放課後等デイサービス：小学生～高校生

送迎
学校・ご自宅への送迎を行っています。
（詳細はお問い合わせください）

お問い合わせ
見学・体験利用・ご相談は
お気軽にお問い合わせください。



Instagram

@kanade.kyomei

日々の活動や行事の様子、
お知らせなどを
発信しています。
ぜひご覧ください！